

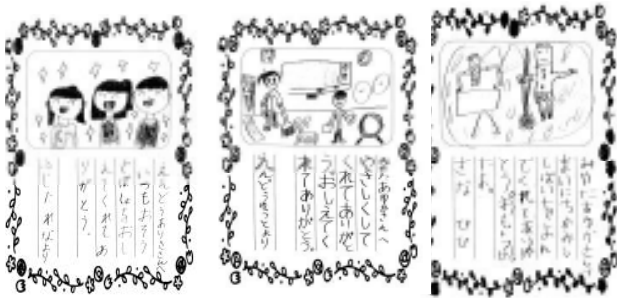


## 6年生ありがとう! 1年生から感謝の手紙

入学当初から、朝の時間に6年生が1年生のお手伝いをしてきていました。着替えや学用品の出し入れなどはもちろんのこと、紙芝居や読み聞かせもしてくれました。

6月になり、1年生もすっかり学校のペースに慣れ、自分たちでできるようになりましたので、朝のお手伝いは終わりになりました。

やさしくて頼りになる6年生に、1年生からお礼の手紙が届けられました。



- いつもおそうじばしょをおしえてくれてありがとう。
- やさしくしてくれてありがとう。おしえてくれてありがとう。
- まいにちかみしばいをよんでくれてありがとう。

覚えたてのひらがなを精一杯丁寧に書いた様子が分かります。また、絵も上手で、きれいに色が塗られています。これを受け取った6年生は、

「これ、もらっていいの？」

「ぼくより字がうまいよ。」

「うれしい、泣きそう！」

「やってよかったな。」

と、それぞれ素直に心から感動の言葉をつぶやきました。いつも元気な男の子が、本当に目にうっすら涙をためている様子を見て、担任も感激したそうです。

1年生の純真さと6年生の優しさが交差し、心温まる場面となりました。学年を越えた交流は、これからも様々な場面で続きます。

## 順調です 『小を積んで大を為す』の暗唱

『小を積んで大を為す』の暗唱をがんばっています。今までに、1年生を除き約半数の児童が合格しています。昨年取り組んだ『雨ニモ負ケズ』や『春はあけぼの』に比べてとても短いので、抵抗が少ないようです。

前にも書きましたが、高学年の子が苦戦しています。低学年の子がすらすらと丸暗記しているのに対し、必死に思い出しながら暗唱しているという感じになります。低学年の子の暗唱を聴いて、「すごい、どうしてあんなにすらすら言えるの？」と感心する子もいます。「そうね。負けてるかもね。」とからかうと、「6年生は忙しいんですよ～」などと言いつつ、ながら校長室を出て行きます。全校児童合格に向けて、忙しい6年生も、毎日少しずつ努力して欲しいと思います。

「小を積んで大を為す」の言葉にぴったりのものが、高学年担任の週プロにありました。

町陸上記録会に参加し、自己ベストを更新した児童が多くいた。やはり、黙々と練習に取り組んでいた児童の成績がよいようだ。普段、目立たなくともコツコツと地道に努力していれば成果が上がることを実証しているようだ。

翌日自主学习で「井の中の蛙大海を知らず」を取り上げ、意味を調べた児童がいた。記録会に参加した児童だったが、自分はそうならないようにとの戒めを込めたものと思われる。他校との違いなども感じたのであろう。よい勉強になったようだ。

子ども達の努力を担任がきちんと見ていて、認めてあげているところがうれしく思います。「井の中の・・・」、お父さんかお母さんが教えてくださったのでしょね。

## 5年生福祉の授業 岩渕ますみさんのお話より

5年生が、総合の福祉の授業で視覚に障害のある岩渕ますみさんから話を伺いました。

岩渕さんは40歳の時に失明され、点字を習い始めましたが、どうしても読むことができませんでした。そして、もうやめようかと諦めかけたある日、突然読めるようになりました。そうすると不思議なもので、すぐに人差し指以外の指でも、さらに左手の指でも読めるようになりました。この時、目が不自由でも時間をかけさえすれば、ほとんどのことはできるんだと実感したそうです。

「努力の成果はいつ表れるか分からないけれど、必ず報われます。99回出来なかったことでも100回目に突然出来ることがあります。『涓滴（水滴）岩を穿つ（けんてきいわをうがつ）』という言葉があります。（意味を説明して）どんなことも諦めないで継続することが大切です。」

と子どもたちに話してくださいました。『いろいろな人にお世話になりながら、人のためにできることをやろう』ということを信念とされている岩渕さん、講演活動の他にも、気功体操の講座を3つも持って教えていらっしゃるそうです。また、編み物にも挑戦されているとのこと。

「目が見えていたときには出来ていたのに、と考えても仕方ない。何が出来ないではなく、何が出来るかを考えるようになった。失明してから新しい人生が開けた。」という言葉に、子どもたちは、深い感銘を受けました。

ボランティアの方と一緒に岩渕さんを校長室から体育館に案内する役を、二人の男の子が務めてくれました。その二人の的確な案内の仕方に岩渕さんもボランティアの方も感心され、「授業でしっかり勉強したのですね。」



と褒めてくださいました。

また、お帰りの時に「本校では、二宮尊徳の『小を積んで大を為す』を全校で暗唱しているんですよ。今日のお話の『涓滴岩を穿つ』とぴったりなので、とても嬉しかったです。」と言うと、「そうですか。それはいいことですね。少しでもお役に立てたら嬉しいです。」とおっしゃっていただきました。

## 根性を鍛えた、みんなと一緒にできた 4年宿泊学習

4年生の宿泊学習では、大中寺からぐみの木峠を越えて大平少年自然の家に向かうハイキング（山登り）コースに挑戦しました。このコース、以前はよく利用されていましたが、長くてきついののでこの頃は人気のないコースになっています。



担任の反省に、次のようなことが書かれていました。

体調を崩す児童もなく、元気に帰ってくることでできてよかったです。児童にとっても大きな自信になったと思います。初日はかなり歩きましたが、根性を鍛えるのによい活動だったと思います。

「根性を鍛える」、懐かしさを感じる言葉です。学校教育の中で久しく耳にしていない言葉で逆に新鮮さを感じました。「根気強さ」や「忍耐力」といった言葉は、よく使われますが、それらとはニュアンスが少し違う「根性」という言葉、下り坂の日本においては、これから見直されるような気がします。

このコースを歩き終えたとき、「一人だといやになっていたと思うけれど、みんなが一緒だから歩きとおせました。」という感想を述べた子がいました。

きつくつらい体験から学ぶことはたくさんあります。



杉板焼き